

## 平成28年度 特定給食施設等研修会実施報告書(学校)

### 1. 研修会の開催概要

- 目的 健康増進法第18条・第22条、奈良市21健康づくり<第2次>及び第2次奈良市食育推進計画に基づき、特定給食施設である学校における栄養管理の向上及び健康的な体格を維持している者の増加を通じた生活習慣病予防を目的とする。
- 日時 平成28年11月22日(火) 14:00～17:00
- 場所 奈良市保健所・教育総合センター(はぐくみセンター)3階 大会議室
- 対象 特定給食施設のうち、公立・国立及び私立小中学校の栄養管理担当者等

内容	資料
<p><b>【講義】</b></p> <p>「奈良市の児童生徒の体格の現状と管理栄養士・栄養士の役割について」</p> <p>講師 帝塚山大学現代生活学部 講師 岩橋 明子 先生</p> <p>(要旨) 奈良市の児童生徒の体格の現状について、平成25年度から平成27年度の推移で見ると小学生の肥満傾向にある児童の割合は男女ともに減少傾向にある。中学生は男女ともに割合が増加している。一方やせは、中学生で若干減少傾向にあり、肥満・やせともに、小学生よりも中学生で、その割合が増加している。学校栄養士の職務内容には、学校給食指導や食に関する指導がある。食に関する指導の充実のために、教職員や家庭・地域との連携調整が不可欠である。食事摂取基準2015をふまえた「学校給食摂取基準」はあくまで平均的なめやすであり、実際は個々の健康や活動量に配慮した運用が求められる。望ましい成長につながっているか、身体測定の際には成長曲線や肥満度判定曲線で評価を行うことが重要であり、施設全体で情報を共有し一緒に進めることが必要である。</p>	講義資料
<p><b>【情報提供】</b></p> <p>「乳幼児健診結果からみえる乳幼児の栄養・食生活課題」</p> <p>講師 奈良市保健所健康増進課 栄養指導員 西村 知美</p> <p>(要旨) 奈良市の乳幼児健診のデータ分析結果から、朝7時半までに起きていない子やおやつを与える時間が決まっていない子は、肥満度15%以上になる割合が高くなっていることを報告し、子どもの頃からの生活習慣が体格に影響を及ぼしていることを説明した。また、平成27年度に保育園・こども園にも同様の情報提供を行っていることを伝えた。</p>	平成27年12月発行奈良市保健所健康情報だより「けんこうアップvol.16」
<p><b>【事例報告】</b></p> <p>「校医、学校、栄養職員、保健センターとの連携した取組み事例」</p> <p>講師 都祁保健センター 管理栄養士 小西 由紀子</p> <p>(要旨) 都祁保健センターでは、平成27年3月に実施した「奈良市21健康づくり&lt;第2次&gt;」栄養・食生活領域における肥満対策会議をきっかけに、平成27年度に「都祁地域の健康問題に取り組むセッション」を3回開催した。学校医、小学校長、小学校養護教諭・栄養職員、保健センターの保健師・管理栄養士が出席し、都祁地域の健康状況や肥満の現状、小学生の健康状態とその影響要因などの課題を共有し、解決のための具体策を検討し取り組んだ。セッションから、子どもの健康課題の解決のために保護者も含めた児童への個別支援の方法や役割分担を明らかにすること、肥満が生活習慣病のリスクになることを保護者に伝えることが大切であることがわかった。</p>	講義資料

<p><b>【事例報告】</b></p> <p>「奈良市立東登美ヶ丘小学校での個別指導」      ～栄養教諭と養護教諭が行う『個別的指導』の取り組み～      講師 奈良市立東登美ヶ丘小学校 栄養教諭 吉田 廣子      (要旨)</p> <p>児童の実態を把握し、心身の健康と体力向上につながる活動を改革し実施することを目的に、保健主事・養護教諭・栄養教諭・教育相談担当者・体育主任・学年1名が担当する「健康教育部会」を設置し取り組んだ。発育測定の結果、肥満度 30%以上の中程度肥満の児童に、年2回のお知らせと資料配布を行い、個人懇談と並行した保護者相談指導を実施した。その他、肥満指導における基本的な考え方、対象児童にみられる問題点、クラス担任との連携について説明した。</p>	<p>講義資料</p>
<p><b>【グループワーク】</b></p> <p>各校から事前に提出された児童生徒の栄養管理に関するアンケート結果と身体計測や健康診断の結果を記した「健康の記録」をもとに、今後どのような取り組みができるか意見交換した。</p>	<p>①事前アンケート結果          ②各校の健康の記録</p>

## 2. 研修結果

<p>参加者状況</p>	<p>21名          内訳：栄養教諭・栄養職員 12名、養護教諭 2名、教諭 1名、給食主任 1名          奈良市教育委員会管理栄養士 1名、奈良市保健所管理栄養士 3名、こども園推進課管理栄養士 1名</p>
<p>アンケート結果</p>	<p>別紙          ・事前アンケート結果          ・事後アンケート結果</p>

## 3. 今後について

子どもを取り巻く食環境は年々変化していますが、子どもの頃からの食事が将来の生活習慣の基礎となることには変わりありません。小学生から中学生までの学童期は、心身が大きく成長する時期であり、自らの成長はもちろん、大人になって次世代を育てるための体の基礎をつくる大切な時期です。子どもは成長とともに、自分自身で食の選択をする場面が多くなり、定着した生活習慣を改めることは徐々に困難になります。そのため、社会にでるまでの義務教育の期間に望ましい食習慣や生活習慣を身につけ、健康的な体格を維持するための知識を子ども自身が身につけることが将来にわたり重要です。そのため、生活の多くの時間を学校で過ごす子どもにとって、支援者の関わりが非常に重要であり、必要に応じて保護者も含めた適切な情報提供が不可欠です。

今後、家庭・学校・地域（医療、行政含む）の連携した取り組みがより一層進むことで、1人1人の子どもが健康的で望ましい食習慣を身につけ、将来にわたり健康的な生活がおくれるよう、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。